

## 子どもたちの学習支援活動

## 『戦争と人々の暮らしは?』『日本の伝統文化を知ろう』

星和台小学校 6年社会科授業

## 「戦争と平和を考える会」に参加して

福4-文 濱岡吉孝

日時 平成19年11月15日

第3~5校時

場所 星和台小学校 多目的室

対象 6年生70人(35人2クラス)

主題 戦争と平和を考える

## 【授業の内容と流れ】

## 冒頭の挨拶

石川 凱裕(福7) 5分

体験談を通して戦争の悲惨さと平和の大切さを語り継ぐ授業の狙いを説明。

## 戦争について

濱岡 吉孝(福4) 40分

- 太平洋戦争を中心に戦争の原因、経過と結果を簡潔にまとめ語った。
- 続いて、近代戦は軍人だけの戦闘に止まらず、一般国民を巻き込む。神戸では1945年3月17日、アメリカ空軍B29,64機による焼夷弾無差別爆撃があった。この空襲で市民約2700人が焼殺、市街の西半分が消滅させられ、市民は恐怖のどん底に突き落とされた。

この体験を記録写真・絵を交え語った。

## 学童疎開について

吉田美音子(福12) 20分

- 空襲の災害から次世代の命を守るため、市内23700人の学童が兵庫・岡山・鳥取・島根県のお寺や親類の家に終戦まで長い間預けられた。
- 空襲の恐ろしさから逃れたことは良かったが、強いホームシックに罹ったこと。神戸に残った家族のことが心配だったこと。農家の手伝いが多く勉強が出来なかったこと。何よりも辛かったのは食べ物不足し、毎日空腹でイナゴや雑草を食べたことなどを疎開を中心に具体的

に話した。

## 平和の大切さについて

内田たみ子(福10) 15分

- 戦争の苦い経験から日本国憲法を制定し平和立国を内外に宣言。軍需生産から平和産業に転換、日本人の優れた知恵と勤勉さで敗戦のどん底から立ち直り、平和外交をベースに貿易を盛んにし世界有数の経済大国になり、私たちが豊かに暮らしていること。日本は世界でトップクラスの長寿国であるが、これは国民が戦争で早世しないことが第一の原因になっていること。等々平和のありがたさを再認識させた。

そして、与謝野晶子の「君死に給うことなかれ」の詩で命の大切さを訴え締め括った。

以上4講師が平易な言葉でパワーポイント(PP)を活用して語った。  
(PP担当 吉田貞二 福10)



## 学童疎開を人形で語る

## 質疑応答

司会 竹田正弘(福6) 15分

Q戦争に負けた時どんな気持ちだったか?

A死にもの狂いでアメリカと戦ってきたので、敗戦は大変悔しかった。反面殺しあう戦争が終わってほっとした気がし複雑な気持ちだった。

Q戦争に反対する人はいなかったのか?

A一部に反対する人がいたが、非国民といって捕えられ終戦まで監獄に入れられていた。

Qラジオや新聞で日本がいつも勝っていると報道されていたそうだが、どう思っていたか?

A日本本土が戦場になり、毎日空襲されるようになり、それを信用しなくなった。

## 【講話を聞いた児童の感想】礼状抜粋

- シルバーカレッジの皆さんありがとうございました。本当に体験した人が話してくれたので教科書や書物を読むより説得力があり心にジンと感じた。
  - 神戸大空襲の写真(市街の消滅状態や黒こげ・窒息死体などの記録写真)や絵(神戸空襲体験画家のもの)を見せてもらったが、戦争のむごさがよく判った。その写真や絵を説明する時、講師の濱岡さんは悲しそうだった。空襲で亡くした友達のこと、焼けてなくなった家のことを思い出したのだと思う。
  - 学童疎開の話の中で父母の元を遠く離れて暮らし、強いホームシックになったこと。空襲のある神戸にいる家族が心配だったこと。戦中の子は勤労働員などで働かされ勉強が出来なかったこと。食料が不足していつもお腹を空かせ、空腹を補うためイナゴや雑草を食べたことなど沢山聞いた。辛かったと思う。そんなことのない平和な今ありがたい。
  - 最後の話し合いをした時(質疑応答の時)戦争に反対する人は非国民といわれ、牢屋に入れられたと教えてもらった。大変驚いた。自分の考えが自由にいえる現在がいい。
  - 僕はいつ死ぬか判らないような不安を経験したことはないが、戦争なんて少しもいいことはない。戦中に比べ命を大切にす平和な今は素晴らしい。平和を保たないといけないと思った。
- (注)以上の感想は児童の礼状の中か  
(次ページに続く)